

特別養護老人ホーム いこいの杜

1 基本方針

- 入居者が、楽しく生き生きと安心して過ごすことが出来る環境作りに努める。
よりよいサービスを提供するために、専門職としての倫理と誇りを持ち、技能の研鑽に努める。
- 入居者、家族、地域住民との連携を強め、地域に開かれた信頼される施設づくりに努める。

2 今年度重点事業目標

- (1) 多職種協働によるチームケアの充実
- ア 認知症ケア……認知症高齢者の人が「安心し自分らしく生きる」ことができるよう、キャプション評価、ユマニチュードの活用、認知症介護基礎・専門的知識の向上を図り、評価・分析的理解、リフレーミングに重点を置き、認知症の人に寄り添った関わり方、生活のしづらさを理解する取り組みを行う。
 - イ 口腔嚥下機能……最後まで食べることの大切さ「味わい」や食を介した「絆・癒やし」を感じる「人生の楽しみ」となる食生活支援における嚥下機能維持向上の取り組みとして、口腔体操・口腔ケアマッサージを強化しオーラルフレイル対策を実施する。
 - ウ 事故防止……日常生活におけるあらゆるリスク場面を想定した予知分析力を強化、危機管理体制を整備し、個別性に特化したクオリティーインプルーブメントに取り組み、安心・安全な生活に繋げる。
 - エ 身体的拘束適正化・虐待防止……入居者の権利擁護に重点を置き、身体的拘束の適正化、虐待防止の意識を高め接遇、虐待の芽、不適切ケアなど未然の予防策を講じサービスの向上につなげる。職員が問題を一人で抱え込まない協力体制のとれる環境の整備を強化する。
 - オ 医療的ケア……多職種連携のもと、入居者の重度化に対応した安心・安全な医療的ケアを提供する。
 - カ エンド・オブ・ライフ・ケア……「老いるとは」に焦点を当て日常的なライフケア、その人らしい QOD (死の質)、死生観により人生のエンドポイントを家族、職員とともに考え尊厳あるケアに取り組む。
 - キ 自立支援……福祉用具の安全かつ適切な使用の促進、自立度を考慮した生活リハビリ、根拠あるケアをもとに機能維持や褥瘡・拘縮の悪化防止を図り、その人らしい活動支援に努める。
- (2) 経営改善・基盤の確立
- ア 入所稼働率96%を確保する。
 - イ 防災・減災を目的に各種訓練を実施する。集中自然災害の備えに重点をおき、平常の支援体制継続に努める。
 - ウ 新型コロナウイルスの新情報に合わせた感染防止対策の強化を図る。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
- ア 職員の専門性、資質向上を図るため、社会福祉士1名、介護福祉士1名、介護支援専門員1名、ユニットリーダー3名の資格取得を目指す。
 - イ オンラインによる幅広い受講形態を導入し、個々の研修計画・経験に沿った支援を行い専門性の向上を図る。
- (4) 地域との連携・交流の促進
- 感染予防対策を講じながら、地域住民、近隣地域独居高齢者、各種学校等との交流を促進し地域連携に努め、協働して地域福祉を推進する。
- (5) 労働環境の整備
- ア 多種多様な福祉用具の効果的活用、導入の研究を行い「持ち上げない、引きずらない介護」を促進させ身体移乗動作の減少、腰痛予防や介護負担の軽減を図る。
 - イ 労働時間の管理、業務の効率化、業務負担の軽減、時間外勤務の軽減に努める。
 - ウ ストレスチェックの結果をもとにハラスメント、メンタルなどの課題を分析しワークエンゲージメントを高めるよう働きやすい職場環境を整備する。